非才

　このところ、私は自分の庭に池を作っている。
それは、長年夢見たことが、実現できないということを思い知ったからである。
職業適性検査というものが義務化されてから、早六年がすぎようとしている。
私は法令にしたがって、今年初めてその検査を受けた。
私の職業希望欄には、「泉を作りたい」と書いた。
しかし、その結果、なれる確率は、０％だったのである。
私は落胆した。途方もなく落胆した。
子どもの頃からずっとあこがれていた。
泉をつくることができれば、他は何も望まないとさえ思った。
けれど、この検査の結果では、私は挑戦することすら罪になってしまうのだ。
私は、あきらめきれず、自分の庭に池を作ることを思いついた。
この位なら、許されるだろう。
スコップを持ち出し、私は穴を掘り始めた。土は思ったより堅く、掘っているうちに、余計なことは、何も考えられなくなった。
頭は空っぽになり、新鮮な空気だけが、頭の中に流れた。
ようやく自分の納得いく深さまで掘り、止水作業を終えると、私は土の上に寝転んだ。
「あとは、頼むよ」と空に語りかけた。

次の次の日、どしゃぶりの雨が降った。
池の中に、どんどん水が溜まっていく。
どこかからやってきたカエルが、どぷんと、池の中に飛び込んだ。
「これで、完全な池になった」と、私は、つぶやいた。

【2018-08-16】指さし小説　第29話

http://p.booklog.jp/book/123463

著者：かっこ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile

今回のテーマは、「非才」でした。このことばが出たとき、あんた才能ないよ。と言われたみたいで、心にぐさっときました。けど、書き続けないと、生きていけない気がするので、この人みたいに、人知れず池を掘っていきたいと思います。

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/123463

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト